

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人 衣川会		
事業所名	グループホームはごろも		
所在地	〒029-4332 岩手県奥州市衣川区古戸45番地 (電話) 0197-52-3755		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成21年1月16日

【情報提供票より】(平成20年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3人, 常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建て	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	おむつ代・理美容実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月5日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.7 歳	最低 77 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険衣川診療所・国民健康保険衣川歯科診療所
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは、衣川区の街中にあるが周辺環境は静かなところにある。ホームに隣接して母体法人が運営する特別養護老人ホーム「羽衣荘」のほか、国民健康保険の医科・歯科診療所や、地域包括支援センター、保健センター、奥州市社会福祉協議会衣川支所等が立地し、行政とは気軽に行き来し、医療もすぐ利用できる環境にあり、まさに保健・医療・福祉の連携が良好に行われている。また、管理者をはじめとして、職員は明るい雰囲気ですべての職員が利用者や、励ましの声かけをしたり、楽しく取り組んでいる。利用者は地域の夏祭りや花火大会、地域の文化祭などに積極的に出かけ交流をし、地域との関係は良好である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価調査では、改善課題となるような話題は見られなかった。これは平日頃から管理者はじめ、スタッフが自己評価への取り組みや、利用者の状況把握ときめ細かいケアへの取り組みの成果である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の方法に工夫が見られ、昨年は全員に全項目を、今年は、項目毎に分担を決め、課題や問題点を見出し全員で話し合いをしている。その結果、「地域」との関わり方に課題があるとして「外に出ること」「家族との関わりを深めること」などを決め、「感謝祭の実施」、「家族単位の写真を撮る」など利用者及び家族、職員が一緒に楽しめるようにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>委員にはボランティアの方や、地域包括支援センター職員、利用者及び家族等を委嘱し、2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。委員の提案により、ボランティア登録制の導入やその活動の活発化が図られるようになったことや、また業務見直しのきっかけになるなど、運営推進会議の機能が発揮されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置しているが、これまで意見はない。また、そこで意見を待つのではなく、家族アンケートを実施し、気がついた意見や、希望、意向などを聞き、改善に早くつなげる姿勢で取り組んでいる。今年、文化祭に併せて満足度調査等のアンケート調査を実施することとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>買い物等の際に行き交う方々と挨拶したり、地域の文化祭へパッチワーク作品を出展するなど、利用者の趣味趣向を活かしている。また、近くの小中学校の行事や、お祭りの大名行列に参加交流をして楽しんでいる。なお、定期的にボランティアの協力を得て回想法を用いて昔の生活や思い出話などで、日々を明るく、楽しく過ごせるよう工夫をしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの「思い」を大切にしながら、「ありのままのあなたに寄り添います」を独自の理念として設けている。その理念を玄関や共有スペースに掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスやモニタリング等を踏まえた中で、処遇等に迷いが生じたときは、皆でホームの運営方針や理念について話し合い、確認し合いながら具体的なケアの支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物等の際に行き交う方々と挨拶したり、地域の文化祭へパッチワーク作品を出展するなど、利用者の趣味趣向を活かしている。また、近くの小中学校の行事や、お祭りの大名行列に参加交流をして楽しんでいる。なお、定期的にボランティアの協力を得て回想法を用いて昔の生活や思い出話などで、日々を明るく、楽しく過ごせるよう工夫をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の方法に工夫が見られ、去年は全員に全項目を、今年、項目毎に分担を決め、課題や問題点を見出し全員で話し合いをしている。その結果、「地域」との関わり方に課題があるとして「外に出ること」「家族との関わりを深めること」などを決め、「感謝祭の実施」、「家族単位の写真を撮る」など利用者及び家族、職員が一緒に楽しめるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員にはボランティアの方や、地域包括支援センター職員、利用者及び家族等を委嘱し、2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。委員の提案により、ボランティア登録制の導入やその活動の活発化が図られるようになったことや、また業務見直しのきっかけになるなど、運営推進会議の機能が発揮されている。	○	グループホームは地域密着型として地域住民の支援協力が非常に大切なことと考えられることから、例えば、地域の代表者や、民生委員などの方々にもお願いし、テーマを定め、そのテーマに応じた話し合いに参加を願い、意見や提言を聞くこともひとつの方法と考えられる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隣接する母体施設(特養ホーム)と保健センター、診療所、社協支所、包括支援センターなどと廊下づたいとなっていることから、気軽に相談や、話し合いが行われており良好な環境にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の広報「はごろもだより」で、利用者の暮らしぶりをお知らせするほか、伝言板欄を設け催し案内や、季節の変わり目の衣類の入れ替えなどを伝えている。また、来訪時には日常生活の写真やケース記録を見ていただきながら健康状態や、生活状況をお話し、家族との対話を重視し理解を深めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、これまで意見はなく、そこで意見を待つのではなく、家族アンケートを実施し、気がついた意見や、希望、意向などを聞き、改善に早くつなげる姿勢で取り組んでいる。今年は、文化祭に併せて満足度調査等のアンケート調査を実施することとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は極力少なくするようにしているが、これまで職員異動により少し不穏状態を示した利用者がいたが、異動した馴染みの職員とのハガキ交換により、不安解消につなげた事例があった。他にもいろいろな方法でダメージをやわらげる工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、大切であるという認識から外部研修には、極力、勤務体制を調整し参加できるように配慮している。また、内部研修は、隣接の特養ホームのヒヤリハット研修参加や、ホーム内のスタッフ会議を利用して困難事例や入浴介護等の介護技術に関する学習を担当を決めて実施するなど、努力をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会のブロック事務局となっていることから、勉強する良い機会であるという認識で、全職員が一体となって企画運営に取り組んでいる。なお、今年は、岩手・宮城内陸地震を踏まえて地震による災害対策をテーマに学習することとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者・家族によるホーム見学を願ひし、雰囲気馴染んでもらうようしている。また、空き居室が出たときには、ショート利用をして貰ひ、宿泊体験で馴染めるようしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が「できること」「持っている力」「役割」を発揮できる野菜作り、行事食作り、漬物作り、干し柿作りなど、場面づくり心かけており、そこで職員が学んだり、また、利用者は、思い出を語り合いながら、その経験を活かした日々の生活が楽しく過ごせるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や独自の書式を併用しながら利用者の思いや意向等の把握に努めている。把握の難しい利用者は、毎日の表情や会話の中からくみ取り、それらを細やかに記載し情報の共有を図っている。特に入浴中の会話は個々の思いを聴くことが多いため大切にしている。なお、時には初めて聞く内容などはスタッフ会議等で確認し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向や希望を踏まえ、また、スタッフ会議で話し合いを得たうえ介護計画を作成している。なお、糖尿病などの食事制限のある利用者については注意しながら食生活の計画づくりに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の評価、見直しは行っているが、状態変化が生じたときの処遇対応に関してはスタッフ会議で検討はしているものの、実情に即した見直し後の介護プラン作成にいたっておらず今後の課題としている。	○	状態変化に伴う介護プラン作成はケアを行ううえで非常に大切なことと考えられるので、対応のあり方について検討されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じ散歩や理美容、ドライブなど、柔軟な対応をしている。なお、外出、通院支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の全員が隣接する国民健康保険衣川診療所がかかりつけ医となっているが、かかりつけ医以外の受診は家族に依頼している。なお、受診する際の生活の様子等に係る情報を主治医と家族に提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化等への対応については、スタッフ体制上の課題などから対応出来ない旨家族には説明しているが、当面、隣接する母体である特養ホームとの連携をとりながら、支援することとしている。なお、重度化した場合の対応については主治医である隣接診療所と話し合いすることとしている。	○	重度化や終末期への対応については、今後その対応が求められることが考えられるので、様々な機会をとりえて学習することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「人生の先輩として尊敬する」を基本認識で接しており、言葉づかいや、言葉がけにも注意をしている。記録記入もイニシャル記入方式を導入し、ケース記録は目に付かない箇所に保管管理している。また排泄の誘導や介助もさりげなく行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、食事の時間や、散歩、一人で過ごす場所などは、それぞれの健康状態や、その時の本人の気持ちを尊重し、できるだけ希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考えたり、調理や、盛り付け・配膳、食器洗い、茶碗拭きなど、食事をめぐる1日の大切な行動を通じて「できること」の発揮や、会話をしながらゆっくり食事をするなど、「楽しみ」「喜び」を味わえる雰囲気づくりに配慮しながら支援している。なお、嚥下困難な人、車椅子の人にも、食事を楽しめるようそれぞれ工夫して食事支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフの勤務体制から入浴支援の方法を一日おきに変更している。なお、外出した日には入浴するようにしたり、好きなテレビを見た後に入浴するなど、利用者の状況に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字教室や、生け花、食事のメニュー書きなど、利用者の得意分野を引き立てたり、また、調理や、食器洗い、洗濯干し・たたみなど、自分は役に立っているという自信に結びつくようそれぞれ役割を持って、達成感や楽しみをつくり出せるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の希望や気分に応じて、散歩や、買物を兼ねたドライブ、花見、お祭りなど、極力、戸外に出かける機会を多く持っており、気分転換を図るための様々な工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーがついているが、職員の見守りを徹底し、さりげない声がけをして、安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域協力隊の援助のもと、母体施設との合同防災訓練を昼夜を想定して年2回実施している。またホーム独自の訓練もしているが、火災を想定しての訓練のため、地震を想定したマニュアルは検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れながら、スタッフが1週間単位交代で献立を作成している。隣接の特養ホームの栄養士のアドバイスを受け、量やバランス、水分摂取状況を毎日チェック表に記載し、情報を共有している。嚥下困難な人などの状態に応じた個別の支援もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広く、吹き上げからの採光が適度に注ぎ込み、ゆったりとした流れを感じる。小上がり座敷があり、ソファ、テレビなども配置されている。廊下には、2, 3人掛けの和式の椅子や、図書コーナーなども準備され、利用者が好みの場所で過ごせるような配慮や工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が思い思いに過ごせるよう、テレビや好みの置物などが配置されている。利用者と家族と一緒に作った飾り物や手芸品なども飾られ、穏やかに過ごせる居室環境となっている。		